

『松江市立女子高等学校魅力化』の方針及び実施計画について

平成 31 年 3 月
松江市教育委員会
(平成 31 年 4 月一部修正)

I これからの市立女子高の在り方について

1. これからの高校教育の在り方

人口減少問題が我が国全体の課題となる中、本県でも地域の将来を担う人材の育成が重要な課題であり、教育に寄せられる期待も極めて大きくなっている。

平成 30 (2018) 年 3 月に国が公示した令和 4 (2022) 年度実施予定の新学習指導要領では、教育課程全体を通して

○「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三本柱によって育成し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る

○社会に開かれた教育課程により、学校と社会が「より良い学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を共有しながら連携・協働して実現していく

という 2 大方針が示され、「生きる力」を育む教育の推進がこれまでも増して鮮明に打ち出された。

一方、政府の教育再生実行会議では平成 31 (2019) 年 1 月、高校生の 7 割が在籍する普通科について、生徒の多様な能力や興味関心に柔軟に対応できるよう、教育内容を細分化し、様々な分野で活躍する人材を養成していく旨の中間報告が取りまとめられた。

これは、普通科は生徒の学力や進路希望などが多様化しており、生徒個々の強みを発揮しやすくするよう画一的なカリキュラムを見直すという内容である。

このような動きを背景に、島根県でも「教育の魅力化は地域の魅力化につながる」を実現するため、各校に「高校魅力化コンソーシアム (※)」を設置して、学校と地域との協働体制で魅力ある高校づくりを推進する方針が示された。

(※)「高校魅力化コンソーシアム」

地域と協働した魅力ある高校づくりの推進に向けた活動を行うために、複数の個人・企業・団体等により結成された組織

2. 市内の県立普通科高校(全日制)の方向性

本校と同様に普通科を設置している市内県立高校 3 校については、かねて通学区制の是非が議論されてきたが、平成 30 (2018) 年 3 月「今後の県立高校の在り方検討委員会」の提言『2020 年代の県立高校の将来像について』の中で、「3 校等質等量の考え方は妥当か?」「居

住地で高校選択を制限することは公平か？」等の疑問点が指摘され、現在の通学区制を維持していくことは困難との見解が示された。

これを踏まえ、この3校については、令和3（2021）年3月実施の高校入試から通学区が撤廃されるとともに、それまでに各校の魅力・特色を、下記のアウトラインに沿って具体化・明確化していくことが公表された。

松江北高	○理数科は最先端の科学技術に触れ、理数科目を重視 ○普通科は既習の知識・技能を生かした課題研究 ○高大接続・中高連携を強化し、地域や世界で活躍する人材を育成
松江南高	○多様な教育課程の編成を可能とするため単位制導入(※1) ○理数科を文理融合型探究科に改編 ○主体的・協働的な学びを推進し、未来を切り拓いていく資質・能力を育成
松江東高	○島根大や地域との連携強化 ○多様な選択科目を開設できる単位制普通科高として Society5.0(※2)で生き抜く力を養成 (2019年度入学生から1学級減)

(H31.2.15「島根県公立高等学校長会総会・研究協議会」資料から抜粋)

(※1)「単位制」

学年制のように学年単位で教育課程の区切りを設けないので、学年ごとの進級認定を行わない。生徒がそれぞれの履修計画に従い履修した教科・科目ごとに単位を認定し、それらの単位の合計が卒業要件として必要な一定数以上に達した場合に卒業を認定する仕組み。「学年」「学級」の意識が希薄化し結びつきが薄れるとの指摘もある

(※2)「Society5.0」

狩猟社会(Society1.0)、農耕社会(同 2.0)、工業社会(同 3.0)、情報社会(同 4.0)に続く新たな社会を指す。サイバー(仮想)空間とフィジカル(現実)空間を AI(人工知能)で高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会のこと

3. 市立女子高校の今後の在り方、及び魅力化の推進

(1)基本的な考え方

女性の自立・社会的地位向上に大きな役割を果たしてきた「女子教育（男女別学）」は、統廃合や共学化によって全国的に減少し、市立・一部事務組合立の女子高は本校を含め全国で7校のみとなっている。

このような状況下にあっても全国の女子大学・短大や他の女子高で女子教育が継続されている最大の理由は「性差による役割分担がないので、決断力や行動力など自立した女性の資質が養われる」ことであり、国内の女性管理職の割合が10%程度にとどまる現状にあっては、女子教育の役割がさらに増しているという指摘もある。

国においては、平成28（2016）年4月施行『女性活躍推進法』、同年6月策定『ニッポン一億総活躍プラン』で、女性の活躍促進が国の成長戦略の中核と位置付けられた。

また、本市においても、平成27（2015）年策定『人口ビジョン・第一次総合戦略「まち・ひと・しごと創生」』の中で「次世代女性リーダーの人材育成」を主要事業の一つに掲げ、積極的に推進していくこととしている。

本校では、昭和 29（1954）年の開校以来、30 人学級制導入、英語教育の強化のほか、観光甲子園出場、ユネスコスクール認定、エイズ啓発活動、修学旅行の実施、キャリア教育拡充など独自の教育を展開して本校の魅力の PR に努めてきた。

今後は、平成 29（2017）年 3 月『松江市立女子高等学校魅力化検討プロジェクト』の提言（資料 1 参照）や、前述のような市内県立普通科高校の動向等を踏まえ、中・四国地方唯一の公立女子高として他校との更なる差別化を図るため、より一層特色を明確にするとともに、魅力を増し、受験生や保護者に選ばれる高校を目指していかなければならない。

そこで、来るべき大学入試制度改革・高大接続等も見据えながら、以下のとおり魅力化事業を推進していくこととする。

本校が募集する(求める)中学生像

- 自主性、主体性を身に付けたい生徒
- 自分の目標をもって進学し、力をつけたい生徒
- 将来は地元で活躍したい生徒
- 語学力を磨きたい生徒
- 真面目に勉強や部活動、学校行事等に取り組み、のびのびと高校生活を送りたい生徒

本校が育てる(目指す)生徒像

- 『より広く より高く』の校訓のもと
- 地域を学び地域を愛し、地域社会に活力を与え、その発展を担う女性の育成
 - グローバルな感性と高い志を備えた女性の育成
 - 生涯にわたって主体的に生きる女性の育成を目指す。

(2) 女子高魅力化事業の主な内容

主な事業内容	<p>①学科再編</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現行の「普通科」「国際文化観光科」を「普通科(総合選択制)」「国際コミュニケーション科」に改編 ○普通科に「総合進学コース」と「キャリアデザインコース」を設け、2 年次から選択によりコース分け ○国際コミュニケーション科では実践的なコミュニケーション能力、海外留学等を通じた異文化理解能力を身に付ける外国語教育を強化 ○学年定員は従来どおり普通科 90 名、国際コミュニケーション科 30 名 ○県内唯一の 30 人学級制を継続 <p>②課題解決型学習の導入</p> <p>両科の 1 年生必修科目として、地域密着型の課題解決型学習『まつえ学』を、本校独自授業で設定</p> <p>③エリア(分野)指定科目(資料 4 参照)の設定</p> <p>普通科に、将来の進路決定のための動機付け、あるいは希望する分野へのきっかけとなるよう、入門的な 4 エリア(分野)「福祉・医療」「観光・ビジネス」「保育・教育」「家政・栄養」を設け、それぞれ独自の選択科目を開設</p> <p>④自由選択科目(資料 5 参照)の設定</p> <p>生徒個々の進路希望、あるいは興味関心がある分野の科目を主体的に選択できる自由選択科目を設定</p>
--------	--

部活動の充実	生徒の希望を踏まえた新しい部の創設や指導体制の強化等により、部活動全体を総合的に充実
高大連携・高専連携	<p>○専門分野の授業を行う外部講師の招聘について、地元国公立大や専門学校等との連携をさらに強化</p> <p>○進学にあたり各大学、短大等の推薦制度をより積極的に活用</p> <p>○国公立・私立を問わず、推薦入学枠について積極的に拡充に努める</p>
校名変更	学科再編に併せて、生まれ変わった市立女子高をアピールするため、校名を「 松江市立^{みなみ}皆美が^{おか}丘女子高等学校 」に改称

(3)実施年度

この事業の実施年度は、**令和3(2021)年度**とする。

II 魅力化の取り組みについて

1. 学科再編と特色

(1)基本的な考え方

国における普通科見直しの動き、県立高校の魅力化の動き等を勘案し、少なくとも市内県立普通科高校にはない特色を打ち出していく。

また、在校生が感じている本校の「伸び伸びできる」「自立心が育つ」「団結力がある」「楽しい、明るい、仲が良い」等のイメージの維持向上に努めていく。

なお、本校は従来どおり「学年制」を採用するとともに、30人学級により「きめ細かい指導」の体制を堅持していく。

(2)新学科の特色

■普通科（総合選択制）

「地域社会に活力を与え、地域の発展を担う人材育成」を目標とする。

基礎科目はしっかり学びつつ、生徒の希望あるいは興味関心に沿った多様な専門科目を体験できるため、進路が明確化され、進学を目指す生徒、資格取得等によりキャリアを磨きたい生徒のいずれにとっても有意義である。

1年次は共通カリキュラムで基礎学力を磨き、2年次からは、生徒自らの選択により、国公立を含む4年制大学等への進学を目指す「総合進学コース」と、将来資格取得、技能習得のために進学、又は就職を目指す「キャリアデザインコース」にコース分けを行う。

また、2年次からはコースの別なく、過去の進学実績等を勘案して4つのエリア（分野）を設けて生徒に選択させ、独自に設定したエリア指定科目を全員に選択履修させる。

これは、専門高校のように在校中に専門性の高い資格取得を目指すのではなく、将来の進路決定のための動機付けや、希望する専門分野へのきっかけとなる入門的科目を履修し、進学先での勉強に役立ててもらおう狙いである。

自由選択科目は、必修科目以外に生徒が目指す大学等の受験科目に応じて選択できるよう設定する。

エリア	想定される将来の職種例
「福祉・医療」	保健師、看護師、介護士、福祉施設、ほか
「観光・ビジネス」	IT(Ruby)関連、マスコミ、観光業界、ほか ※現国際文化観光科「観光コース」の内容はこのエリアで継続
「保育・教育」	保育士、幼稚園教諭、ほか
「家政・栄養」	管理栄養士、理美容師、ファッション、ブライダル、ほか

■国際コミュニケーション科

県内公立高校で唯一の語学学科として「国際社会、地域社会で活躍するグローバルな人材育成」を目標とする。

主に英語の4技能「読む・書く・聞く・話す」の力を磨き、加えて必修科目で中国語・韓国語のいずれかを選択履修させることによって実践的なコミュニケーション能力、異文化理解能力を身に付けさせるとともに、進学先または就職先で学んだことをプラスアルファとして目標の実現を目指してもらおう狙いである。

また、令和2(2020)年度から始まる大学入学共通テストにも対応できるよう、学年ごとに設定する学校設定目標(級・点)を目指し、全生徒に英検やTOEIC、GTEC等の民間英語検定試験の積極的な受験を推奨・支援する体制を整え、語学教育を一層強化していく。

あわせて、海外語学留学に関する相談窓口(教員)の設置や、留学先での履修を本校における単位習得と認定できるカリキュラム編成等、留学しやすい環境整備を図っていく。

これらにより、諸外国と対等に渡り合える人材の育成を目指す。

想定される将来の職種例
ホテル・旅館、通訳・翻訳、航空業、ツアーコンダクター、日本語教師、外資系企業、秘書、公務員、ほか

(3)新カリキュラムの特色 (資料2・3参照)

普通科(総合選択制)	国際コミュニケーション科
【1年次】 ・共通カリキュラム ・課題解決型の独自設定科目『まっえ学』必修 【2・3年次】 ・両コースとも進学に備え所要の科目を履修 ・キャリアデザインコースはインターンシップ、企業見学、ボランティア等を実施(市立病院、保育所、介護施設、市役所、市内企業、ほか)	・1年次に課題解決型の独自設定科目『まっえ学』必修 ・英検、TOEIC、GTECを受験し語学力認定資格取得を推奨支援 ・海外語学留学の支援体制整備 ・観光客への英語によるアテンド(案内)体験 ・海外研修旅行実施(現行どおり) ・中国語、韓国語の選択履修 ・ICTによるアクティブラーニング

(4)地域密着型の課題解決型科目『まっえ学』の設定

1年生全員に必修させる**本校独自の学校設定科目**（資料5参照）であり、ふるさと松江に愛着を持ち、課題を共有するとともに、地域貢献や定住促進等について考える機会を設定し、本校生徒としての主体性を伸ばしていくことを目的とする。

松江に関するテーマについて、生徒自らが具体的・現実的な課題を見つけ、その課題解決に向け、取材やグループ学習・討議を重ねて自ら解決策を導き出していく内容であり、解決策に至るまでのプロセスを重視する授業である。進行や段取り等はすべて生徒主導で進め、教員はあくまでファシリテーター（学習支援者）の位置付けとなる。

学年末には研究発表会も想定している。

松江市立高校である利点を最大限に活かして、取材・出前講座等には松江市役所の関係課の職員等の協力を得るとともに、研究発表された成果が松江市の施策へつながっていくことも期待される。

なお、2・3年次では、進学・進路選択に向けた指定科目や選択科目を多く学習するため『まっえ学』の授業は設定しないが、1年次に学習した内容と関連付けて、エリア指定科目等の中で発展的な内容として取り組んでいく。

2. 部活動の充実

部活動は、生徒にとっては高校生活を過ごす中で大きな要素であり、また、受験生にとっては進路を決定する上での要素の一つでもある。

本校では近年、ダンス部、ハンドボール部、吹奏楽部が好成績を挙げているが、その他の部も実力をつけており、校内の“活性化”に一役買っている。

また、例年実施しているオープンハイスクールで、吹奏楽部の演奏やダンス部のパフォーマンスを目の当たりにして本校への進学を考えた中学生も多くいる。

今後も、生徒の希望を踏まえた新たな創部の検討や指導体制の充実強化等により、総合的に部活動全体の充実を図っていく。

■近年の部活動の主な成績

平成27年度	弓道部	中国選手権大会 出場
	吹奏楽部	全日本吹奏楽コンクール島根大会 銀賞
平成29年度	ハンドボール部	インターハイ 出場
平成30年度	ダンス部	全国高等学校ダンスドリル選手権大会 HIPHOP女子 Small 編成 出場
	書道部	島根県高文連書道コンクール 2名特選

■部活動の状況 ※数字は H30.5.1 現在部員数

区分	現在の部活動	創部を検討
文化系	生物部 9、美術部 25、書道部 18、放送部 7、日本文化部(華道)20、日本文化部(茶道)12、吹奏楽部 33、食物手芸部 15 【計 8 部 139】	観光部、パソコン部、など
体育系	バレーボール部 22、テニス部 18、ハンドボール部 20、弓道部 21、ダンス部 48、バスケットボール部 19 【計 6 部 148】	サッカー部、など

3. 高大連携・高専連携

大学、短大、専門学校との連携については、現在でもキャリア教育の一環として出前講義に各大学等の先生方を招聘しているほか、島根県立大松江キャンパスの見学・特別聴講についてもご配慮をいただいている。

今後、カリキュラム編成の中で入門的な専門分野の授業を設置すると、外部からの専門の講師招聘が必要となる見込みであり、地元国公立大や専門学校等との連携をさらに強化していく。

また、進学については予めから AO 入試等の推薦制度を積極的に活用しており、多くの卒業生が推薦入試で進学している実績がある。今後も国公立・私立を問わず、推薦入学枠について積極的に拡充に努めていく。

■（参考）H30 出前講義の招聘大学等

分野	大学等	分野	大学等
教育	島根大	語学	京都外国語大
福祉	島根大	国際コミュニケーション	比治山大
歴史	島根大	経済・経営	広島経済大
保育・幼児教育	島根県立大短大部	医療	川崎医療福祉大
看護	島根県立大 出雲	日本語文化	安田女子大
栄養	島根県立大 出雲	就職	松江総合ビジネスカレッジ
総合政策	島根県立大 浜田		

4. 校名変更

学科再編という大きな魅力化事業の実施を契機に、イメージを刷新し、生まれ変わった市立女子高をアピールするため、校名を『**松江市立^{みなみ}皆美が丘^{おか}女子高等学校**』に変更する。

昭和 42（1967）年から本校校舎が建つ西尾町の丘陵一帯は「^{みなお}南尾」と呼ばれていたが、第 2 代校長山本近市氏（在任 S37.4～S44.3）の提案で「皆美が丘」と呼ばれるようになり現在に至っていることに因む。

本校校歌も「ふるさとの皆美が丘に…」の歌詞で始まるほか、学園祭は「皆美が丘祭」の名で長年実施している。また、同窓会組織も「皆美が丘会」と称しているなど、在校生・卒業生には極めてなじみが深い。

在校生・同窓生や地元で親しまれている「皆美が丘」を校名に盛り込むことで、地元志向や親近感を醸し出すとともに、女子高らしい華やかさが加わると考えている。

III 実施スケジュール

平成 31(2019)年 1 月～	関係機関・団体等へ順次説明
令和 2(2020)年 5 月	新カリキュラム公表
令和 2(2020)年 10 月	受験生向け募集要項作成・配布
令和 3(2021)年 4 月	校名変更、学科再編 入学式

IV その他

1. 女子高経営委員会

魅力化事業を進めるうえでの意見・助言等を伺うため平成 29（2017）年 10 月に設置した外部委員会「松江市立女子高等学校経営委員会」（4 名）については、PDCA サイクルによる事業検証等を行っていく必要があることから、今後も継続していくものとする。

なお、現在の委員は次のとおり。

委員氏名	役職
岩本 悠 氏	島根県教育魅力化特命官
熊丸 真太郎 氏	島根大学大学院教育学研究科准教授
高島 恵美 氏	山陰中央新報社文化事業局出版部部長
多々納 道子 氏	松江市教育委員

※多々納委員以外は女子高魅力化検討プロジェクト委員

2. 校歌、校章等

校歌は、歌詞に校名が含まれていないため、現行どおりとする。

校章は、由来を見る限り校名変更による影響がないため、現行どおりとする。

制服のブレザー、各部のユニフォーム、各種印刷物等に用いられているエンブレムは「MG」
「MATSUE GIRLS' H.S.」の表記があり、長く親しまれている。校名変更しても近隣で唯一の
市立女子高であることに変わりはなく、また「MG」が「松江」「皆美が丘」のいずれを表すと
しても特段の影響はないので、現行どおりとする。

校旗等については、校名変更に伴い更新が必要となる。

校歌	
一	ふるさとの 皆美が丘に ひかり充ち 若草敷きて 唄うおとめら
二	嵩の峰の秀(ほ) 仰ぐところ つねに賛(たたえん) 若き命を 出雲野に 雲はゆたけく 学びの舎をめぐりて 清き 水は流るる
三	真理の光 照らすところ つねに研(みが)かん 若き英知を おとめらが 熱きところに 吹きいづる 世代の笛は ひびけ巷に 潔き未来を 希(ねが)うところ つねに掲げん 若き理想を
	作詞 森脇善夫 作曲 西岡光夫

▼校章



【校章の由来】

外側の松葉は松江を表すと同時に松のようにしっかりと大地に根を下ろして育ってほしいという作者の願いが込められている。松葉の内側は“女”という文字をかたどり、その中に高校を意味する“高”の字がある。三方に突き出ている小さな線はやはり松江にちなんだ松葉を図案化したものであるが、生徒、先生、保護者の三者が手を取り合って学校を築くことを表現している。

この校章は昭和 29 年 4 月 16 日に応募作品約 100 点の中から決定したもので、作者は保護者の一人で米子図書館司書(当時)の長崎孫明氏である。

▼エンブレム

